

海獣と、 人間

東カリブ編(中)

2日目(2024年10月17日)の午前は、国際捕鯨委員会(IWC)コミッショナーで、グレナディーン・スナッグ氏を表敬訪問した。鯨類の持続的利用支持に関して結束強化を要請するためである。

セントビンセント・グレナディーン(SVG)が捕鯨国として知られているのは、先述したバルワイーでのブラックフィッシュの捕獲よりも、ベグウェイ島でのIWC管轄下の先住民生存でザトウクジラを捕獲しているからだ。グレナディーン諸島でいちばん大きな島で約5300人が住んでいる。ザトウクジラは年間4頭の捕獲が許可されている。

22年10月にスロベニアで行われた第68回I

WCへの欠席理由を聞くと、「前年の42年ぶりの火山噴火の被災対応に追われていたため」ということだ。今年の第69回については、次の3点質問した。

①SVGは分担金を滞納していたため投票権がなかったが、いつ支払ったのか
②南大西洋鯨類サンクチュアリ提案を棄権した理由は
③6年に1度の先住民(アボリジナル)生存捕鯨枠が更新されたが、先住民とい

いと発言したと答えた。先住民という単語については、9月23日からの総会前日、先住民生存捕鯨小委員会で、関係各国からも繊細な問題とされた。しかし、ながら単語を変えていどう意見が多い中、アラスカエスキモー捕鯨委員会は、アボリジナルの言葉を残さないと、米国の法律上、保護の対象にならないと主張していた。

そのほかSVG国内での反捕鯨団体からの嫌がらせは、次の3点質問した。

54種の中には資源評価がよい種もある。標本判別が難しい類似種(似たもの項目)という理由で、正当な科学的根拠(資源評価)に基づかずに貿易制限をした議の不当性を日本は強調して聞いた。

最後に、22年11月パナマで開催されたフジントン条約(CITES)の第19回締約国会議で、ヨシキリザメを含むメジロザメ科54種の付属書II掲載決議について

54種の中には資源評価がよい種もある。標本判別が難しい類似種(似たもの項目)という理由で、正当な科学的根拠(資源評価)に基づかずに貿易制限をした議の不当性を日本は強調して聞いた。

スナッグ氏も「日本と同じ考え方立つ」と賛同。

世界は不明瞭なものは保護するという傾向があり、SVGにとって重要なコン

ク負も制限がかかるかもしれないと思う」と述べた。

筆者は「それは悲観的過ぎ

た。

スナッグ氏は「日本と同じ考え方立つ」と賛同。

世界は不明瞭なものは保護するという傾向があり、SVGにとって重要なコン

ク負も制限がかかるかもしれないと思う」と述べた。

筆者は「それは悲観的過ぎ

た。